

令和7年度第1回近江八幡市食育推進委員会会議記録（要約）

1 開会

<本委員会の開会挨拶>

（健康推進課長）皆様、本日は足元の悪い中、またお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。昨年3月に近江八幡市食育推進計画を策定いただき、今年度は第3次計画1年目ということで、食育に関する行政や各団体の取組を共有する中で、市民運動として機運を高めていけるように、皆様から忌憚のないご意見をいただく機会としたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

（事務局）当委員会は、市民公開としており、傍聴希望される場合は参加を認めることになっておりますので、ご了承ください。本日は本市の企画課のオーガニックヴィレッジ推進事業で総務省の地域活性化起業人制度を活用して、株式会社ABCクッキングスタジオより派遣いただいている辰己様が傍聴いただいております。令和7年7月1日に着任いただき、地域食材のレシピ開発や子ども向け料理教室、秋の農業まつりで開催されたオーガニックイベントでのオーガニック農業の啓発等ご活躍されています。

資料の確認をお願いします。お送りした資料は、次第、資料1～4、近江八幡市食育推進計画（第3次）の概要版、参考資料です。

2 自己紹介

（事務局）今年度から農林漁業体験の推進等でご意見いただこうと、株式会社イカリファームから委員推薦いただいております。また、企業連携による食環境整備の推進等でご意見いただこうと、株式会社平和堂のアル・プラザ近江八幡から委員推薦いただいております。

<委員自己紹介>

<事務局より資料1に沿って説明>

（事務局）本委員会では、今年度につきましては、「市民の自発的な食育推進活動の推進に関すること」、「食育に関する情報の共有化に関すること」を中心に議論いただきたいと思います。

なお、皆様の任期につきましては、要綱第4条の規定により令和9年3月31日までの2年間となりますのでよろしくお願いいたします。なお、委嘱書は4月初旬に送付させていただきます。

います。

3 委員長・副委員長の選出

委員長に小切間委員、副委員長に中島委員を選出する。

(委員長) 本委員会は、先ほど健康推進課長からお話がありましたように、近江八幡市の食育推進計画に沿って、様々な分野でご活動いただいている皆様に集まっていたいただき、さらに市民運動として機運を高めていくと同時に、現状を把握し、さらにこういうことを進めたらどうかというような具体的なご提案をいただけるということを目的としております。微力ながら務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

4 議題

(1)「近江八幡市食育推進計画(第3次)の取組について」

<計画書概要版・資料2・3・4・参考資料に基づき、事務局から説明。>

(委員長) 説明に対してご質問やご意見などはありますか。

(委員) (特に質疑や意見なし)

(委員長) また、重点項目として、「1日3食きちんと食べる(特に朝食の内容を整える)」「食塩をとりすぎない」「野菜をきちんととる」に関して各団体で取り組んでいること、今後取り組みそうなことについてご意見をお願いします。

(A委員) 実施状況の中では学校教育課、給食センターの取組と関係してくると思います。家庭科の取組の中での食、それから小中学校で毎日給食を食べることが子ども達にとって大きく、1日の中でも一番の楽しみな時間でもあります。給食センターの方が作ってくれる、給食の紹介原稿を全校で聞きながら、季節のものか、近江八幡のものかなど話しながら食べています。各家庭の差は大きいので、給食で知ること、給食で味わう食文化が非常に多いかなと思います。それから減塩、残食への取組も家庭差があると思いますし、その必要性に触れる機会として非常に給食は大きいかなと思っております。栄養教諭の先生が来てくださっての食育の授業も発達段階に合わせながら、担任とIT教室のような形で専門の先生から意見を聞いてみようかと掛け合いしながら、子ども達が学ぶ機会としては非常にありがたいなというふうに思っております。すべての学年で来ていただいて、小学1年生から深い内容を早い段階から学んでいて、積み上げが大事だと思うので繰り返し実施しています。家庭科もそうです

が、体育の保健の中でも運動・食事・休養のバランスのとれた健康的な生活について、子ども達は教科で学んでいます。たんぼのこの事業では農作物を育てて、それを収穫して調理して味わうということをして市で事業として、全小学校で取り組めるようにしてくださっているので、そういう機会がお米を育てることがそのときにしかないという子ども達もたくさんいると思いますし、育てたものを喜んでいただくという貴重な経験をさせてもらっていると思っています。それから、英語の授業では“「私達の国の文化はこうですよ。」と話せる子に”ということで日本や地域の食文化を調べて話すことも非常に多くなっています。いろんな教科の中で食について触れる機会はあります。学校と家庭で乖離があってはならないですが、家庭によってさまざまで、夕ごはんも朝ごはんも十分にない家庭もなくはないと思います。今の自分の生活の振り返りもだが、その子ども達が大人になったときに自分で食習慣を作っていくということを見据えながら育てていけたらなと思います。家庭科でも小中で一緒に授業をやって一緒に喋りながら、小学校で学んだことが中学校でこういうふうになんか発言に表れているとか、こういう事態になっただけということも知りながら、一緒に進めていって、時には教育実習生の生徒が入って、「私達の大学生の中にも一人暮らしで朝は食べないという方も多いし。」とかいうことを聞くと、そうなったときに、自分で食生活ができるようにならないとあかんと言いながら進めているところです。

(委員長) 小学校、中学校の取組を具体的にご紹介いただけたなと思います。

(B 委員) 幼稚園では就学前ということで食育など食の基礎的なところを育てていると思っていて、際立てて食育としてというよりは生活と密接して育てていくという感じですね。小学校と一緒にやっぱり日々の給食は大きいと思います。姿勢、箸の持ち方、苦手なものもまずは口に入れて味や食感を知ることが大切になっています。幼稚園3歳児は初めての給食ということもあり、家庭との違いにすごく戸惑いを感じて、全く手を付けられないお子さんもいますので、無理強いすることなく、“みんなと食べる楽しいね”という感じで緩やかに進めています。4・5歳児になると給食に慣れていきますので、“苦手なものを先に食べてしまおう”とか“半分だけ頑張ろう”など目当てを決めて食べる子がいたり、少しずつ箸の持ち方がうまくなったり、食器に手を添えたり、など身につけてきています。4・5歳児になって給食センターに見学に行かせていただくと、“こうゆうふうに野菜を洗って、切って、作ってくれはるんや”ということを目の当たりにして、たくさんの方が関わっていること、食材を無駄にしてはいけないことを感じて、感謝の気持ちや残食を減らす気持ちが育まれています。そして、幼児課の食育も活用して、「だしってどんな味？」では、“だしがしっかり効いていると味噌が少なくてもいいんや”ということがわかったり、お豆腐を手の上で切ると

いう家ではしたことないようなことを食育活動で経験しています。園ではこのような活動しましたと保護者に伝え、「家でもだしとってみます」という声をいただくこともあるので、家庭と連携していくことが大事なと思っています。そのほか「ごはんが炊けるまで」ではお米をかして、透明のお鍋で米を炊く様子を見たり、「朝ごはんを食べよう」では3つの栄養を知りバランスよく食べること、「生活リズム」では排便の習慣を作ること、「食事のマナー」では姿勢よく食べることなどの幼児課と連携して日々の生活の中で取り組んでいます。園での取組としては、畑での栽培活動やクッキングしています。玉ねぎやじゃがいもを育てて、カレーパーティーということでカレーを作っています。色々な材料を入れようと、家ではどんな食材を入れているかなど話したり、家の隠し味はどうかと子ども達が考えたり、お家の人と相談したりして美味しいカレーを作っています。ボランティアさんに来ていただくなど地域、家庭とのつながりを大事にしながら進めています。夏野菜ではバーベキューとしてホットプレートで焼いてみたり、緑のカーテン事業でゴーヤを育てているので、ゴーヤチップスを作ります。ゴーヤは苦くて苦手という子も、ゴーヤチップスにすると「おいしい」といって食べ、毎年すごく楽しみにしています。サツマイモの収穫をしたら田んぼで昔さながらの焼き芋をしたり、大根を採ったら出汁をとって、おでんパーティーにするなど、幼児課の食育と繋がるようにもしています。畑の栽培にしても、クッキングにしても地域のボランティアのお助けっていうのをすごく大事にしていますので、繋がるというところで地域の方の活用も大事にしております。また、とても自然豊かな幼稚園ですので、みかん、さくらんぼの木があるので季節ごとに収穫して洗って食べています。金柑が落ちていたら「ジャム作って。」と子どもたちが持ってきて、みんなで食べたりするなど、生活と密接しながら食材や味に触れる経験を豊かにすることをすごく大事に活動させていただいています。園には看護師がおりますので、看護師を中心に「ノージュースデー」の取組をしています。私の園ではまだ少ないのですが、前の園では「ジュースに含まれる糖分は角砂糖やスティックシュガー何個分もあるんやで。」「こんなにいっぱい砂糖が入っているから、牛乳やお茶の方が体に良いんやで。」とお話していただきます。また、今の園では毎朝、教育委員会の「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」のにこまる体操を活用して、運動会でも披露しました。園内研究でも“体を動かして遊ぼう”ということで、体を動かして元気に遊ぶという取組を進めています。

(委員長) 様々な活動で具体的で光景が浮かぶようなお話をいただきまして、しっかりと繋がるというキーワードも入れていただきまして、非常にわかりやすくご説明いただいたと思います。

(C 委員) 資料 3 の 21 ページになりますが、保健所では対住民サービスはほとんどないため、施設や関係団体への働きかけがメインになります。近江八幡市の重点項目に合わせていくなれば、社員食堂などで減塩に繋がる環境作りを啓発したり、野菜が比較的多くなるようなメニュー展開を給食施設指導の場面をお願いしているところです。会社側として、社員食堂は福利厚生の一環として経営されていますが、今健康経営など社会情勢もありますので、従業員の健康に繋がるための環境整備をしていただくというお話をよくさせていただいているところです。汁物の塩分濃度を残しておいてもらったもので測定し、数値で評価させていただき、社員食堂を経営されている側に知ってもらう取組を試みているところです。保健所としては資料 3 でとってもたくさんさんの事業でいろんな団体やツールでされているところがすごいなと感じさせていただいているところですが、中でも健康推進課がいろんな企業と連携されています。令和 6 年度の実績でアル・プラザ近江八幡、郵便局、ウエルシア薬局、イオンとあがっていて、令和 7 年度は ABC クッキングとさらに企業と繋がっていかれているところが見えたのですごいなと思わせていただいています。参考資料を見たときもすごくいいことをされると思って関心深く見せていただいたのですが、健康づくりにはハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチがあるのですが、近江八幡市はポピュレーションアプローチに力を入れてやっていかれて、食育や健康づくりも力を入れてやっていられるんだなというのがすごくわかり大変良かったですし、県も企業との連携も進めていきたいなと感じさせていただきました。

(委員長) かなり専門的なこと、キーワードを入れていただき、大きな目で見るという形でご意見いただけたなと思います。

(G 委員) 当社としてはお子さまに対してエコピース活動をしている。小学校低学年の方を中心にスーパーに食材が入ってから加工され商品になるまでの流れを見学していただく取組をしています。子ども達に商品売るまでこれだけ過程があるということ現場に入って見ていただいています。家庭でとなると、無駄のないように食べてもらうようエコピース活動の時にご案内させていただいています。また、店舗にベジチェックを設置していて、野菜をどれくらい摂っているか数値化される機械で、夕方お母さんと一緒にされるなど親子でされる方も多いです。機械で数字が出るため、子どもにとっては一つの関心事項になっているようです。月平均 2000 回くらい測定されています。そのほか、健康推進課と減塩啓発をしている他、“お子さまへしっかり食べてね”と啓発していて、当社としては売るためのフードロス啓発であり、お子さまにとっては家庭内フードロス削減へ繋がるようにエコピース活動の中でご案内させていただいています。

(委員会) さまざまな取組を進めてくださっていることが非常にわかりやすく説明いただいたと思います。

(H 委員) 報告を聞いていて、健康推進員とやっていることと合致しているなど思いながら聞かせてもらいました。健康推進員ではコロナで調理実習ができない時期もありましたが、今ようやくできるようになってきたので、減塩はもちろん、野菜 350g 摂取の啓発を各学区で頑張っています。みなさんのご意見を聞きながら、すごいなと感激しながら、やっぱり食は重要だなと思いました。

(委員長) 重点世代としています、妊娠期・子育て期など「若い世代に対する食の啓発」あるいは、乳幼児期から中学生などの「家庭につながるような食の啓発」に関して各団体で取り組んでいること、今後取り組めそうなことについてご意見をお願いします。

(F 委員) 昨年、10月に日本栄養士会の雑誌のコラムを書かせていただいたがご覧になっていただいた方いますか。飲食業という立場からの内容だったのです。食べ物は私たちにとって何なのかということ考えたときに、前年にオーストリアのアルスエレクトロニカという世界的なデータサイエンスのフェスティバルに食べ物から自然の環境とか世の中にあるものについて発表しに行ったことがありました。世の中にあるものをデータで数値化して見て、どういう意味でそれが存在するのか真剣に考えている人たちが集まっている場です。食べ物を違った視点で見たときにどう見えるかとなると、物理学の最小ミクロン単位で食べ物を見たとき、小さな小さな素粒子でできているわけです。物理学者に言わせると、そこには意思が存在しているとおっしゃるのです。近江八幡市在住の方ですが、その方が言われるにはそのことは物理学の式で証明できると本に書いておられます。それが正しいと仮定すれば、それらが集合して大きくなり、かたまりとなってきます。私達はそれを食べて、体の細胞がいるものといらないものを分けています。赤ちゃんですら選択して生きています。健康のために何を選ぶべきか考えることもあるが、“これがどこから来たのか”を考えます。ほうれん草ですら、生き物として何かを取捨選択をして自分自身を作り上げていくんですね。それにはすべて意志が存在しています。例えば、イカリファームさんの田畑にある土で育っているとすると、そこで繰り返し繰り返し、生命の営みが行われてきて育ってきた命の記憶を体に取り込むことになります。水は琵琶湖から用水としてくみ上げられて、土はずっととどまったままということが多いから、非常に濃厚な近江八幡の記憶と生命の活動を私達は取り込んでいるわけです。取り寄せたイタリアの生ハムを食べたとしたら、違う記憶を取り込むことになるのですね。それがダメだという

ことではなくて、地産地消は自分が非常に濃密な地域のものを自身として作りこんでいることになるのです。食べる行為そのものは栄養ではあるのですが、食べることは自分自身を作り上げる行為なので、なにか違った見方ができるではないかと思えます。健康になればなるほど、将来的に保健医療にかかる費用はコストダウンしますよね。それを狙うのであれば、小学生に「健康なままであれば一体いくら得すると思えますか。」と聞いたら非常に面白い答えが返ってくるのではないかと思えます。子どもの頃に「健康になればなるほどこれだけ儲かりますよ。」と言われたら興味を持つのではないかと思えます。

(委員長) かなり深い話をさせていただけたと思えます。

(D 委員) 私達は大地で生まれる命と感動をお届けするということをしていたいと考えていて、直接消費者の方にお届けする活動をしています。そのときに感じるのは自分たちの体は食べ物がすべてだということです。小学校への出前授業や中学生の職場体験で伝えたいと考えています。課題として、小さな会社のため、外部の方達との連携が少ないということだと思います。生産者としてできることは、農業を体験していただくということで、0歳から中学生まで参加があり、保護者からは、「こんな貴重な体験をできる場所は他にない。」「今まで子どもがこんなに食べることはなかったのに、今日は食べてくれた。」「残さなくなりました。」等の声をいただくと、“うれしいな”という気持ちになります。人気があったのは青竹の炊飯、ピザをピザ窯で焼くという取組でリピーターも多いです。食べ残しを減らすことについては出前授業でこんな風にして作っているからと話していました。2.3年前までは学校給食のパンの小麦を作っていたこともあり、伝えられる場があったことはありがたかったです。子ども食堂にボランティアで食材提供していたことがあり、社員も参加させてほしいと考えていましたが難しいということがありました。連携先を教えていただけると、地域と連携した取組ができるのではないかと感じるので、ご協力いただけたらなと思っております。

(委員長) 連携先ですね。ニーズがあつて、こちらに提供する場があるにもかかわらず、うまく繋がらないということがあるなら、そこを解決すると食育が進むということだと思います。

(I 委員) うちの子ども食堂はおむすび食堂といって、本当に“おむすび”だけの食堂です。地元の営農組合さんから提供いただいたお米でおむすびを作って食べるという本当にシンプルな食堂スタイルにしています。地域に子どもセンターがないため、居場所を作りたいという思いがありました。遊んだり勉強したりできるスペースを作

り、食べることも取り入れたいと思いました。いろんなものを作って提供するとなるとスタッフも大変だし、シンプルに子ども達に自分でおむすびを握ってもらい食べるスタイルで始めました。市内にはフリースクールの方達が不登校の子と一緒に調理されている子ども食堂もありますし、お弁当を作って、お困りのご家庭にお届されているような子ども食堂もあります。先ほどイカリファームがおっしゃっていたような連携もぜひさせていただけたらありがたいなと思います。今回は「新米のおむすびやで。」と声をかけたり、米を提供していただいている営農組合のみなさんにお手紙を書いて渡したりして、地域との繋がりも大事にしています。子どもの生活スタイルで思うのが、うちは平日の第4水曜日にやっているのですが、学童に通う子どもが増え、小学校では130人中50~60人が通っていて、子ども食堂に来るのも、その子どもが結構多くて、学童へお迎えに行くと、子ども食堂が18時に終わるので、また学童へ送り19時まで過ごす子もおり、今の子どもは家で過ごす時間が少ないなと思います。夕方のおやつ替わりでおむすびを食べるのですが、たくさん食べる子もいて、「今こんなに食べたら晩ご飯食べられへんで。」という言うのですが、「晩ご飯なかなかあたらないから。」と言うことがあり、なかなかお家でゆっくり夕食を摂れないやろうなと思いますし、おむすびだけでもゆっくりワイワイ言いながら食べてくれて楽しい時間になったらいいなという思いでさせてもらっています。

(J委員) 私たちは0~2歳の子どもや保護者と関わることが多いのですが、共働きが増えており、1年で復職する人も多いので、その中でどうやって家庭の食事を安定させていくかは一緒に話していて、お母さんもお父さんも悩んでおられます。学校などの集団生活の中では本当にたくさんのお組があって、小学校まで行くと意外といけるかなとお話を聞いていて思ったのですが、家庭での食事というのは生活の中で働く割合がすごく多くて、どうやって家庭で理想を実現していくかを考える機会となりました。私たちの取組の中では一緒にご飯を食べる取組を広場で開催しています。離乳食が上手くいかないこともあるので、子どもと親が1対1にならない状況を作っています。子育て中のスタッフが多いので、仕事をしながら家庭での食事は現実的に大変と聞いているので、福利厚生にあたるかわからないですが、研修として食事を中心に持ってきてほしいというのが私の中にもあって、0次予防センターの体力測定に出向くなどして、お腹が膨れるだけの食事ではないということを研修で学び、触れ合っていく親御さん達にそれを伝えていけたらいいなと思っております。

(委員長) 家庭での食を子ども達にしみこませる、経験させるというのが難しいという事は切実な問題で、もはや家庭の問題ではなく、地域の問題でもあったり、もっと大きなスケールの問題なんだろうなと改めて認識させてもらいました。では、第3

次計画の取組方針であり、重点事項としても取り組んでいきたい「体験を通じた食育活動」に関して各団体で取り組んでいること、今後取り組めそうなことについてご意見をお願いします。

(E 委員) 毎年、小学校のお子さん対象に田んぼの学校というのをさせてもらっております。私も金田小学校での体験の際に行かせてもらったときに、子どもたちが泥を知らないんですね。最初は、子どもたちが田んぼの中に入るのを「汚い」「気持ち悪い」と言っていたのですが、職員や先生の指導で最後には「もっともっと植えたい」の声が上がり、田んぼの半分だけ植える予定がそれより多く植えることができました。子ども達は米の育つ過程などの説明を受けると理解してくれて、おにぎりなど食事することを楽しもうという感じで終わったのでよかったと感じました。毎年、全小学校ではないが、希望のある小学校に出向いて、指導しながら田植え稲刈り体験などして、希望のある限り参加させていただこうと思っている企画になります。チャグリン大会は小学生対象なのですが、会社全体でさせていただいているので、近江八幡市以外の地域で開催するときには近江八幡市のお子さんの参加がない状態です。小学校にどういうふうに行けば参加してくれるか毎年課題になっていて解決していないのです。昨年は夏休みを利用したもので、大中で牛肉が自分の口に入るにはどのような流れで牛が肉になってということを勉強し、残食など指導もさせていただきました。全地域で親子30名ぐらいの参加でしたが、近江八幡の参加者は2~3人でした。今後は先ほどから連携という話が出ていたのですが、私たちは小学校の子ども達と繋がりたい、地域と繋がりたいと、いろんなイベントや企画を考えたりするのですが、企業連携が難しいです。昨年度、イベント等困っている方がおられたらお声かけくださいとお話をさせてもらい、3地域に出向きました。また、市役所とも色々な場面で連携をとりたいと思っていますので、今来年度の計画を立てている状態なので声掛けていただければできる範囲でさせていただきたいなと思っています。弊社の対象年齢が60代以上になってきていて、みなさん、若い世代を対象にされているので、連携をさせていただけたらありがたいなと思いながら話を聞いておりました。余談ですが、アル・プラザ近江八幡にあるベジチェックしたことがあります。すごい簡単にできるので子どもとしました。野菜が十分に摂れていました。

(委員長) 繋がるとか連携とか周知方法など、それぞれの現場で良い活動をしていたり、いろんな方々を受け入れて進めていきたいと考えてくださっていることもわかりましたので、今後さらなる展開につながるキーワードかなと思いました。

(A 委員) 子どもへのイベントの周知についてですが、働き方改革の観点から、全て

は受け取って配るということはないが、学校の判断で内容を見て配布したり、出入口に置いたりしています。今はPDFにしてLINEでも配信もできますので学校に相談いただけたらと思います。

(E 委員) 配布するときは教育委員会の許可が必要ですか。

(事務局) 一回連絡入れていただきたいです。

(J 委員) 0~18歳まで利用者支援で情報提供しているため、情報をもらえるとありがたいと思います。

(委員長) この場でいろいろ解決しているような感じがします。

(C 委員) 資料3の2ページ、幼児課で塩分濃度測定されていますが、近江八幡市は私立園が多いことが特徴だと思います。指導の中で確認していますと、市の献立を私立園が使っておられるということが多くありますので、私立園でも塩分測定をしていただくと、食育推進計画にある12年後の数値が変わってくるのでは思いました。期待を込めて言わせていただきます。

(F 委員) 食の産業の市場規模は4兆円ぐらいで、自動車産業は22兆円ぐらいです。食品はここから伸びる可能性が非常に高く、今、外国人は日本の食に興味があります。インバウンドの多くは日本の食べ物にアクセスしているとなると、日本の食に対する経済規模というのは大きくなる可能性が高いですね。子どもの頃からの食育というビジネスに通じるものを学び始めているわけなんですね。自動車産業となるといろんなものを学んで、大学で技術工学を学んでやっと工学者としてアクセスするという積み重ねが必要になるのですが、世界が眼差しを向けている食という産業を自然に子どもの頃から学んでいます。それをこれから子ども達がどう生かしていくかは大人である私達がどう子ども達に伝えてあげるかによって、目の前にある、おむすびですら、自分の大きな未来につながっていると思うことができたらワクワクするのではないかと思います。近江商人の目から見て、食べ物、土、水など可能性が広がっていると見ると、私達の住んでいるところは金脈、原石の埋まっているところかもしれません。

また、連携をとって繋がりを持っていくという中で、能登半島の地震の際、ライフラインが止まりました。電気やガスがなくなったら食べ物をどうするのか、水はどうやって安全に食べ物と栄養補給するのかとなったときに料理人には知恵があるが、食材がないと加工できないのです。平和堂さんに協力いただくとか、食育推進委員会のネットワークが防災に非常に有益なのではないかと思いました。何かがあったときに

食べ物を入手する方法が少ない中でどうやって安全に栄養を確保するのかというのも一つの食育かと思いました。

(委員長) 私も防災食育のテーマを研究に取り入れています。自然と折り合いをつけながら食べながら生きていくということなのかなと、お話を聞きながら考えさせられました。

(D 委員) 市の公式 LINE で情報発信しているようですが、情報に辿り着かない人が多いのではないかと思います。情報発信方法が今後課題だと思いました。

(B 委員) 近江八幡市公式 LINE は登録する際に自分がほしい情報が選べるようになっています。

(委員長) 貴重なご意見いただきました。以上をもちまして本日の議事はすべて終了いたしました。本当にみなさまありがとうございました。

5 閉会

<本委員会の閉会挨拶>

(副委員長) いろんな情報を聞かせていただいて、健康推進員に伝えていきたいです。また、市民として地域にも伝えていきたいと思いました。皆さんお疲れ様でした。

(事務局) ありがとうございました。これをもちまして、令和7年度第1回近江八幡市食育推進委員会を終了させていただきます。令和8年度の第1回近江八幡市食育推進委員会については、令和9年1月を予定していますのでよろしくお願いします。本日は誠にありがとうございました。